

(株) HMSからの報告の概要  
(12月25日18時00分までに受けたもの)

- 12月18日に水分・密度計（土の締固度などを測定する機器）を使用するため、線源棒を収納器から取り出そうとしたところ、収納器にないことが判明。
- 最後に水分・密度計を使用したのは12月10日、また、最後に線源棒を確認したのは12月15日。このため、12月15日から18日の間になくなったと推定。
- 収納器は鍵付きであるが、なくなった当日は鍵が鍵穴にささったままとなっており、線源筒（線源棒を入れる専用の筒）も同じくなくなっていた。
- 12月18日に目視により線源棒を保管していた現地事務所を搜索。その後、12月19日から簡易型線量計、12月22日から簡易型線量計に加えシンチレーション測定器（簡易型より高感度）を用いて現地事務所及び造成工事を行っている現場（東京ドーム3個分）を搜索。
- 線源筒もなくなっていることから、線源棒がなくなると推定される日に工事を行った場所を重点的に搜索したが発見できなかったため、12月25日16時に線源棒（放射性同位元素）が所在不明と判断。
- 所在不明になった線源棒は、長さ約220mm直径16mmでコバルト60(2.59MBq)、カリフォルニウム252(1.11MBq)が装着されている。線源筒は長さ430mm直径30mmで赤色のアルミニウム製の表面に放射能標識シールが貼られている。
- なくなった線源棒による放射線の影響について、線源棒から1m離れた場所での実効線量の評価値は、 $2\mu\text{Sv/h}$ であり、1年間その場所においても放射線障害のおそれはない。
- 近隣には住宅地や学校などの施設はなく、一番近い施設はゴルフ場。
- 引き続き線源棒の搜索を行う。

以上